

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2009
 課題番号：18520114
 研究課題名（和文） 現存本の悉皆調査を通じた読本の出版流通に関する書誌学的研究
 研究課題名（英文） Bibliographical study on the publishing and trading of Yomihon with the comprehensive survey of the extant copies Yomihon

研究代表者
 高木 元（TAKAGI GEN）
 千葉大学・文学部・教授
 研究者番号：00226747

研究成果の概要（和文）：この研究課題で科研を得た四年間で、国内外ともに多くの未知であった所蔵機関や個人コレクションの書誌調査が実施できた。残念ながら確実な初板本を見出せない標目も残っているが、収集したデジタル画像等を参照して書誌データの整備をした。後摺本や活字翻刻本を含めた調査を志したので、データ整備を完璧に終えたわけではないが、Web 上の Wiki として限定公開して批正を仰ぎつつ、より正確なデータとして公開する予定である。

研究成果の概要（英文）： Over the past four years we were able to use our funding to carry out bibliographic research on a number of public and private collections both in Japan and abroad that had remain unknown up until this point. While there unfortunately remain some texts for which we were unable to locate a definitive first printing, we used the digital photographs we took to create new bibliographical records. As we had planned to include information on later reprints and modern editions made with moveable type we have not yet completely finished the research but we have made the data public in a limited form on the web as a Wiki and are in the process of refining the records and plan on making the final results public.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 2006 年度 | 1,100,000 | 0 | 1,100,000 |
| 2007 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2008 年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2009 年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,400,000 | 690,000 | 4,090,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：読本／出版・流通／書目年表／書誌／近世後期小説／受容史／明治期

1. 研究開始当初の背景

近世文学研究の中でも読本研究はそれなりに進捗してきたが、それでも大半の研究は上田秋成や山東京伝、曲亭馬琴に集中してい

て、いまだに読本というジャンルの全体像が明確になっているとはいいがたい。個別の作品研究における諸本調査は散見するものの、網羅的な調査報告は未だになされていない。

それも、基礎研究としての書誌調査が不十分であることに起因する。所在情報も必ずしも一元化されておらず、まして個人蔵書については大多数が非公開である。さらに、海外の諸機関に所蔵されている本についても一部を除いて明らかになっていない。

そこで、二十数年前から基礎研究の進捗が急務だと認識して、この時間と労力とが必要な原本調査に基づく「読本出版書目年表」の制作へ向けた取り組みを細々と続けてきた。

2. 研究の目的

本研究の最終目的は「読本出版書目年表」の編纂である。読本研究に供するための基礎資料の整備を目指す。この「出版書目年表」は、単なる初板の出版事項を時系列に即して記述するだけではなく、諸本諸板研究を通じて後印本や異板なども明らかにしうる記述書誌を目指したい。同時にオリジナルから派生した明治期の活字翻刻本などをも可能な限り博搜して掲載することに拠って、テキストの遡源を追求する従来の作品研究のみならず、近年盛んになりつつある出版流通史研究や受容史研究にも役立つ資料としたい。

3. 研究の方法

「読本出版書目年表」の作成のためには、その所在を探ることが必要である。『国書総目録』や国文学研究資料館のデータベースを活用するのは当然として、それだけでは完全ではないので、先行研究や、近世文芸コレクターなどから知り得た国内外の図書館や機関、個人等が蔵している読本を尋ねて行き、原本を実見した上で、可能な限り精確な書誌をとる必要がある。

嘗ては、書誌カードを使った筆記に拠る記録が主流であったため、一回の調査で得られる書誌データは限られていたが、昨今は強い照明を当てずに撮影することができるデジタルカメラの普及で、資料を傷めなくて済むためにデジカメでの撮影が許可されるケースが多くなった。このデジタルカメラを使って画像データを収集することが可能になったため、飛躍的に調査効率が上がった。現場で収集した多数の画像データに基づいて、帰宅後に書誌を記述しテキストデータ化することが可能になったからである。

また、既に基礎的な書誌データの収集を終えている標目の場合は、インターネット上に公開されている画像データに拠れば済む場合もあった。

しかし、いずれにしても画像データのままで資料情報（書誌情報）を検索することができないので、最終的には目で見て具体的な情報を「書誌」として記述しデータベース化する必要がある。

4. 研究成果

書誌情報の調査収集に関しては、調査を進めるに従って次々に新たな所在情報が分かってくるので、とても「悉皆」は無理であった。それでも二十年近く継続してきた調査の結果得られた大量の情報を、一旦は報告しておくのも意義なしとはしないであろう。

以下、今回の調査研究でのトピックを中心に箇条書きにしてみる。

(1) 個人蔵書に関する調査を集中的に実施した。特に読本研究の泰斗である横山邦治氏の蔵書を、三年続けて夏休みに広島のお自宅を訪問し全冊の調査を実施し、横山氏が大著『読本の研究』で触れられたことを原本に就いて確認できたのは大きな成果であった。これ以外にも、既に故向井信夫氏、浜田啓介氏、鈴木重三氏などの蔵書の調査も終えており、非公開であった個人蔵書中に多くの貴重な資料を見出した。

また、故林美一氏の蔵書は立命館大学アートリサーチセンターに収められ、既にこの調査も実施している。故中村幸彦氏の旧蔵書は関西大学に収められているが、未整理で全体的な閲覧は困難な模様ではあるが、嘗て国文学研究資料館でマイクロフィルムに拠る撮影が行われて閲覧に供されていたので、一応最低の書誌情報は得られる。

斯様な悉皆調査が一番困難なのが個人蔵書である。多くの場合は蔵書目録が完備されていることはないし、行ってみないと何があるか分からないからである。しかし、凡そ読本の纏まったコレクションについては調査を終えることが出来たものと思われる。

残された書誌事項が未詳の標目について、広くその資料の所在のご教示を得るべく、取り敢えず本調査結果を公表することが必要だと思われる。

(2) 従来知られていなかった国公立の図書館に在るコレクションについても、故岡本勝「白子長谷川家旧蔵書目録」(『中部大学人文学部研究論集』13) など、特に地元の研究者による紹介に拠って知ることが出来た。特に大きかったのは、明治期貸本屋の旧蔵書が収められているものの未公開である愛媛県立図書館の調査を、愛媛大学の福田氏の協力を得て実現でき、多数の明治期後印本の書誌データの収集が出来たことである。明治期に入っても貸本屋の品揃えとして江戸読本が不可欠であったこと、それも馬琴読本の持つ息の長い商品価値について識ることができた。

こちらはその存在自体は既知ではあったが、一大読本コレクションを蔵する学習院大学国文学研究資料館の資料を、延べ四日間にわたって調査をすることができた。簡単なタイトルを記した目録は備わっていたが、本格的な

書誌調査は今回が初めてである。昭和三十年代に文部省の補助金を得て購入された資料群であったが、その母体は「漆山文庫」という新潟県の医師に拠る収集の由。その多くは貸本屋本で後印本ではあるが、纏まった蔵書として読本の流通に関する貴重な資料であった。

(3) 国立国会図書館と早稲田大学図書館に所蔵される読本も少なくないことが分かっていたが、国会図書館については各標目の全丁画像データがDVDで提供され始めたので、これを購入している。本来ならば「近代文学ライブラリー」のように国会図書館自身がインターネットで公開すべきだとも思う。一方、早稲田大学図書館の方は「古典籍総合データベース」として従来は貴重書であって閲覧しにくかった和古書の大部分をWebで公開し始めた。こちらは利用価値の非常に高い画像データであり、広く国内外の研究者の利用に供されているのは好感が持てる。

在外資料に関しても同様で、ソウル大学のように全丁の画像データ公開から得られる学恩は嘗ての想像を遙かに超えている。すべからく、多くの機関の資料がインターネット上で公開されるようになると良いと思う。

(4) 海外の和書についても『オランダ国内所蔵明治以前日本関係コレクション目録』(H. Kerlen, 1996)などの成果が公開されていて、調査に多大の便宜を提供している。クリストフ・マルケ氏に拠る目録が準備されつつあるフランス国立図書館のトロンコワコレクションなどに所蔵される資料と、ベルギー王立図書館、ロシア国立図書館などに所蔵される読本についても調査できた。本課題の研究経費以外での渡航も含まれているが、蔵書目録の公開されていない機関が多く、行ってみなければ分からないことが大部分なので仕方ない。

その他、海外ではイタリア国立図書館、大英博物館、米国カリフォルニア州立大学バークレー校、同ロサンゼルス校、コンロビア大学、スタンフォード大学などにも読本が所蔵されているようであり、これら今回は行く機会が得られなかった機関のものは、既に発表されている蔵書目録や調査報告に拠ったが、何時か実見してみたいと思う。

さて、最終的な成果は『読本出版書目年表』として出版する予定であるが、それ以前にウェブサイト (<http://www.fumikura.net>) で Wiki として知り得た書誌情報等を限定的に公開して、一定の期間、大方の批正を仰いでからより精確な書誌データにした上で上梓する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計16件)

①高木 元「資料紹介『英名八犬士』(五)一解題と翻刻一」、千葉大学『人文研究』第39号、千葉大学文学部、2010年、査読なし、pp. 169~202

千葉大学学術成果リポジトリ

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg10/Jinbun39-07.pdf>

②高木 元・及川季江「『烟花清談』一解題と翻刻一」、『人文社会科学研究』第18号、千葉大学大学院人文社会科学研究所、2009年、査読なし、共著、pp. 23~50

千葉大学学術成果リポジトリ

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg10/jinshaken-18-18.pdf>

③高木 元「資料紹介『英名八犬士』(四)一解題と翻刻一」、千葉大学『人文研究』第38号、千葉大学文学部、2009年、査読なし、pp. 219~251

千葉大学学術成果リポジトリ

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg10/Jinbun38-13.pdf>

④高木 元「江戸読本に見る造本意識」、『アジア遊学』109号、勉誠出版、2008年、査読無し、単著、pp. 113~124

⑤高木 元「魯文の売文業」、『国文学研究資料館紀要』34号、2008年、査読あり、単著、pp. 141~176

⑥高木 元「『笠つくし褒め詞』について」、『日本文化論叢』第9号、2008年、査読なし、単著、pp. 1~10

千葉大学学術成果リポジトリ

http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/hiroya/nihonbunka9_takagi.pdf

⑦高木 元「資料紹介『英名八犬士』(三)一解題と翻刻一」、千葉大学『人文研究』第37号、千葉大学文学部、2008年、査読なし、pp. 19~79

千葉大学学術成果リポジトリ

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg10/Jinbun37-02.pdf>

⑧服部 仁「漢文体小説『小説温泉奇遇』について」、『上方文藝研究』4号、2007年、査読なし、単著、pp. 1~14

⑨高木 元「資料紹介『英名八犬士』(二)一
解題と翻刻一」、千葉大学『人文研究』第 36
号、千葉大学文学部、2007 年、査読なし、
pp. 213~270
千葉大学学術成果リポジトリ
<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/metadb/up/irwg10/Jinbun36-08.pdf>

⑩高木 元「高井蘭山著編述書目(覚書)」、
高木元編『近世出版文化史における〈雑書〉
の研究』、千葉大学大学院「研究プロジェク
ト報告書」第 133 集、2006 年、査読なし、共
著、pp. 83~108

〔学会発表〕(計 3 件)

①高木 元「(抄録家)魯文の艶本」、「近世
春本・春画とそのコンテクスト」、2009 年 12
月 5 日、立命館大学

②高木 元「江戸の出板事情と八犬伝」、特
別展「八犬伝の世界」開催記念講演、2009 年
2 月 8 日、館山市立博物館

③高木 元「江戸読本に於ける文字と絵画」、
ワークショップ「文字を見る、絵を読む 日
本文学とその媒体」、2007 年 4 月 27-28 日、
日仏会館

〔図書〕(計 2 件)

①高木 元「八犬伝の後裔」、『日本のことば
と文化』、溪水社、2009 年、共著、pp. 225~
246

②服部 仁編「馬琴研究資料集成」全七巻、
クレス出版、2006 年、単著、288p、-p, 524p、
-p, 820p, 578p, 379p

〔その他〕

①ウェブページ
<http://www.fumikura.net>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高木 元 (TAKAGI GEN)
千葉大学・文学部・教授
研究者番号：00226747

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

服部 仁 (HATTORI HITOSHI)
同朋大学・文学部・教授
研究者番号：20103153